

支援者の方へ

幼児教育を充実させるための視点

《企業への協力要請の事例》

福岡県では、企業・事業所の「子育て応援宣言企業」登録制度を実施しています。これは、男女従業員の子育てを支援するための具体的取り組みを企業・事業所のトップが自主的に宣言し、県が登録する制度です。



新雇用開発課 TEL 092-643-3586

また、小売店や飲食店などが登録し、小学校入学前の子どもがいる子育て家庭に対してキッズコーナーや授乳スペース、お菓子のプレゼントなどの応援サービスを提供する「子育て応援の店」推進事業を実施しています。



(財)福岡県地域福祉財団 振興課 TEL 092-582-2396
<http://www.fp-kikin.or.jp/> 携帯<http://www.fp-kikin.or.jp/ik/>

《自然体験・生活体験の事例》

タンポポ保育園（志免町）では、秋と冬、年間2回のお泊まり会を通して自然とのふれあいをダイナミックに体験します。自然の恵みを子ども自身が感じ、自然に対する敬意の念と感謝の念を持つことにより、豊かな人間性が大きく育まれます。大自然が子どもに与えてくれる様々な発見は心づくりに体づくりの原点です。



タンポポ保育園 TEL 092-935-2463
<http://www.tanpopo-hoikuen.or.jp/>

《異年齢体験活動の事例》

福岡県立社会教育総合センターでは、5歳児と小学4・5年生が、年間を通して体験活動や学習活動を共に経験できる事業を実施しています。子どもたちの人と関わる力や集団生活のマナーを培い、特に幼児の小学校生活への移行をスムーズにすることを主なねらいとしています。



福岡県社会教育総合センター TEL 092-947-3511
<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/>

人・組織

- 子育て支援に対する企業への協力要請
- 子どもを中心とした親相互や親と地域等とのネットワークづくり
- 指導者や子育てサポーターの養成・活用

事業等

- 入園・入所等の機会を生かした家庭教育講座の企画
- 自然体験、生活体験の機会や場の充実
- 非日常体験や異年齢による体験活動モデルプログラムの開発
- 図書館活動やブックスタート事業の充実による読み聞かせの推進
- 親を巻き込んだ講座、高齢者を対象にした孫育て講座の企画

施設等

- 幼児が宿泊できる施設の整備・充実
- 幼児が利用できるための既存施設の改善・改修
- 子育てサロンを開設するなど、子育てを支援する場づくり

啓発

- 多様な媒体を活用した情報提供や啓発活動の充実
(広報誌やインターネット、携帯電話等)
- 様々な場面を利用した家庭教育の重要性のアピール
- マスコミやメディアへの子育て応援の要請

《家庭教育講座の事例》

嘉麻市では、保育参観や学習参観など、多くの親が集まる機会を活用して家庭教育講座を実施しています。子育てについて、助産師から専門的な知識を学習したり、実技を通して親子のふれあいの大切さを伝えたりしています。講座を企画する際には事前にアンケート調査を行い、ニーズに応じた内容づくりに努めています。



嘉麻市教育委員会 生涯学習課 TEL 0948-57-3157

《幼児宿泊施設の事例》

緑地保育センター「おひさまのいえ」「もりのいえ」(北九州市)は、豊かな自然の中で宿泊体験や集団生活を通じて幼児に創造性、自主性、協調性などを養うための施設です。心豊かで健康な子どもを育成するために、緑と太陽のもとで遊びを中心とした保育を行っています。緑地保育センター「おひさまのいえ」 TEL 093-741-0468 「もりのいえ」 TEL 093-475-8107



<http://www.otomarihoiku.jp/>

《子育てサロンの事例》

日の里子育てサロン(宗像市)は、中学校の余裕教室を利用し、実行委員会が中心となって地域のボランティアの方と一緒に、乳幼児を持つ親同士の交流や中学生と乳幼児のふれあう機会を提供しています。中学生が、サロンでの体験を通して乳幼児に関心を持ち、親になるということの意味や責任感を自覚する貴重な場となっています。



日の里子育てサロン TEL 0940-36-0834
宗像市子ども課 TEL 0940-36-1214
<http://konet.munakata.com/map/mapDetail.php?SEQ=134&CAT=5&REAL=1>